



三田村農園で収穫体験



農商工連携人材育成講座



三田村農園のハウスで農作業体験

農都共生研究会の活動

慶應義塾大学 大学院システムデザイン・マネジメント研究科 特任教授 林 美香子

はじめに

「農都共生」と聞いて、意味がお分かりだろうか。農



村と都市の共生を短縮した言葉で、地域づくりの分野でかなり使われるようになった。

経済の循環、情報の循環をすることで、農都共生が進んでいく。日本の農政は長い間、農業政策中心だったが、ヨーロッパの農村政策の成功を見るにつ

農業・農村の発展は、農業関係者の努力だけで達成できるものではない。農産物の買い手である都市住民の理解や協力を得て、交流や連携を進めていくことも大切だ。農村と都市が交流や連携を深め、人材の循環、

農村政策として、グリーンツーリズムや直売所などのアグリビジネスにも力を入れる必要がある、それが農都共生の推進に力を発揮すると考えている。

さまざまな活動



私はキャスターの仕事をしてきたが、北海道大学工学部で「農村と都市の共生による地域再生」の研究をし、博士号を取得したあと、2008年から慶應義塾大学

大学院SDM研究科の特任教授となりアグリゼミ（農業・農村をテーマに研究するゼミ）を担当している。同時に、農都共生研究会を立ち上げ、農家、コンサル

タントなどの会員と共に、慶應大学と連携しながら活動を続けている。農都共生をテーマにした講演会やフォーラムの開催、都市住民のための農業・

農村体験の実施、農家を応援するためのボランティア活動、マルシェの実施、アグリビジネスの講演会やワークショップの開催などのほか、ホームページの運営、報告書の発行も継続している。

や農業関係者の中には冷やかな反応もある。だが、北海道農業の今後の発展を考える時、原材料を作るだけに留まらず、加工、販売方法などで付加価値を高めていくことは不可欠だと思う。そうした視点から、北海道中小企業診断士会主催の農商工連携人材育成事業に、当研究会のメンバー4人が実行委員として参画した。

講者の中から、人的ネットワークや農商工の連携が得意、新たな農産加工に取り組むグループが現れた。また参加農家の中には、宣伝・販売に関して、「大きな飛躍のチャンスを得た」と語る人もいた。

さまざまな参加者によるワークショップ



この農商工連携人材育成事業と関連付け、当研究会でも、農産加工、マルシェ、グリーンツーリズムなどのアグリビジネスをテーマにしたワークショップを、夏と秋の2回、開催した。農

中でも、実際に農村へ足を運ぶことが大切と考え、毎年、農業・農村体験を実施している。会員の由仁町・三田村農園（代表・三田村雅人氏）で、農作物の収穫体験やピザ作りの料理実習など、農家も参加者も一体となった交流の時間を過ごしている。一連の交流の中で、「農家の知恵や苦労を肌で感じる」と語る参加者も多い。

農商工連携人材育成講座



この事業は、経済産業省の予算により実施された講義と実習によるセミナーで、5月から半年間、開催された。農家も参加しやすく、農家のニーズに合った講座となるよう工夫したところ、農家・農協職員など農業関係者10数人を含む80人を超える応募があり、好評のうちに修了した。

この農商工連携人材育成事業と関連付け、当研究会でも、農産加工、マルシェ、グリーンツーリズムなどのアグリビジネスをテーマにしたワークショップを、夏と秋の2回、開催した。農



ワークショップの様子



ワークショップで議論が盛り上がる

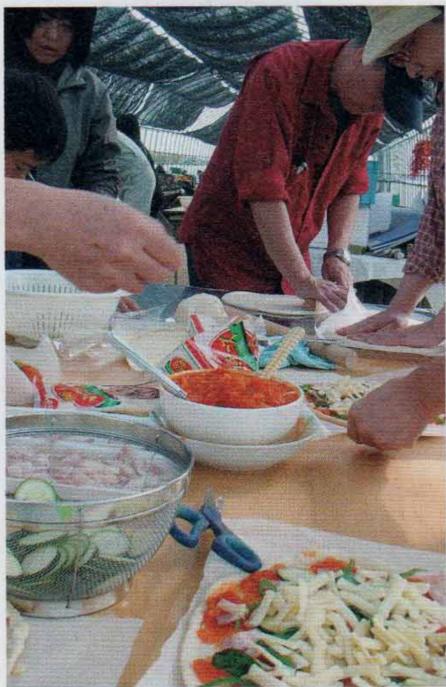


ワークショップでの発表

昨年度は、特にアグリビジネスの推進に力を注いだ。農商工連携や6次産業という言葉に代表されるように、アグリビジネスへの期待が高まっているが、農家

特に人気が高かったのは、新篠津村の有機農家・大塚裕樹さんと、千歳市の農家でアイスクリーム店を営む小栗美恵さんの先駆者としての話だった。受

この農商工連携人材育成事業と関連付け、当研究会でも、農産加工、マルシェ、グリーンツーリズムなどのアグリビジネスをテーマにしたワークショップを、夏と秋の2回、開催した。農



ピザ作り風景



畑の野菜でピザ作り



夏の収穫祭

堀内剛さんが、農家の三田村雅人さんとの出会いをきっかけに、長年の夢だった新規就農を実現できたことは、思いもかけないうれしい出来事だった。農業法人などで働き、農業技術や農業経営を学んできた堀内さんは、今年から、三田村さんの農地を借り、トマト、

六次産業活性化事業に 参画

昨年度、札幌市が公募し

ナスなどの多品種の野菜栽培を開始している。収穫体験や農園での直売なども計画している堀内さんの活動を、当研究会としても応援していきたい。

た六次産業活性化推進事業（道内の1次産業者と、札幌市の2次、3次産業者による連携の事業）に応募し、採択された。乳業メーカーの新製品商品化に向けたテストマーケット事業に参画し、試作品の味の提案、パッケージ制作、アンケート調査などを行った。売れる商品づくりのための価格設定、ネーミング、パッケージ、販路拡大などが、北海道の農産加工が抱える大きな課題であることを再認識する作業でもあった。

今年の活動

5年目の今年も、引き続きアグリビジネス推進に力を入れ、8月25日・土曜日・



農都共生報告書2012の表紙



農都共生研究会のホームページ

林 美香子

プロフィール

札幌生まれ。北海道大学農学部農芸化学科卒業後、札幌テレビ放送株式会社にアナウンサーとして入社。退社後、キャスターに。現在は、エフエム北海道「ミカマガジン」出演の他、「食」「農業」「地域づくり」などのフォーラムにパネリスト・コーディネーターとしても参加。「農村と都市の共生による地域再生」の研究で北海道大学大学院にて、博士（工学）・Ph.Dを取得。慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科特任教授。北海道大学大学院農学研究院客員教授。著書に「農都共生のヒント」「農村へ出かけよう」（寿郎社）など多数。

農都共生研究会

〒060-0807
札幌市北区北7条西2丁目 37山京ビル1F寿郎社内
TEL 011-708-8565 FAX 011-708-8566
E-Mail shoji@s-co.jp
http://www.noutokyousei.jp

午後3時半からEDiE（札幌市中央区南1西6）で、北海道物産展のカリスマバイヤーとして有名な内田勝則さんを迎えて、「売れる仕掛け」の講演会を開催する（詳しくは、農都共生研究会のHP参照）。多くのみ

なさんの参加を期待している。これからも農村と都市の共生を推進し、北海道の農業・農村がより元気になれるような活動を継続していきたいと考えている。